

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：有限会社 エフワイエル	所在地：390-0867 長野県松本市蟻ヶ崎台 24-3
評価実施期間： 平成 30 年 7 月 10 日から平成 31 年 2 月 19 日 *契約日から評価結果報告会日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050512 050542 061163	

2 福祉サービス事業者情報（平成 30 年 10 月現在）

事業所名：松本市神田保育園	種別：保育所
代表者氏名：管理者 菅谷 昭 園長 百瀬 純子	定員（利用者数）：120 名（106 名）
設置主体：松本市 経営主体：松本市	開設年月日：昭和 26 年 4 月 1 日
所在地：〒390-0822 長野県松本市神田 1-3-1	
電話番号：0263-25-4736	FAX 番号：0263-25-4737
ホームページアドレス：	
職員数	常勤職員：12 名 非常勤職員：21 名
職員内訳等	保育士：28 名 調理員：4 名 シルバーサポーター：1 名 常勤職員の平均年齢：37.0 歳 平均在職年数：11.0 年
施設・設備の概要等	乳児室：1 室 ほふく室：1 室 保育室：5 室 調理室：1 室 事務室：1 室 遊戯室：1 室 調乳室：1 室 屋外遊具：すべり台、ジャングルジム、ブランコ 砂場、鉄棒、わたり棒 たいこ橋 便所：4 室

3 理念・基本方針

<p>○ 保育目標</p> <p>保護者が安心して子どもを預けられ、心も体も健康な子どもの育成を目指す。</p> <p>○ 基本方針</p> <p>地域とのかかわりを大事にし、自然や伝統文化の中で子どもの育ちを豊かにする。 集団の中での育ちを大事にする。</p>

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

地域の伝統文化を地域の方から教えてもらい伝承し、保育に活用している。
山や川、自然に恵まれた環境の中で、のびのびと体を動かし、自然に親しんでいる。

5 第三者評価の受審状況

初回

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

国のガイドラインに基づき長野県の各サービス分野の評価基準等が改訂され、評価の判断基準も異なってきたので、初めにそのことについて説明いたします。

評価細目（別添 1、2）に対する判断基準は以下の通りとなっています。

a：よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態

b：aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取り組みの余地がある状態

c：b以上の取り組みとなることを期待する状態

つまり、「ある、ない」や「やっている、やっていない」という外的基準ではなく、やっている事の内容を評価員・評価機関が判断してa・b・cを決定しています。

そのため、当評価機関としてはaの場合は取り組み状況、b・cの場合は取り組み状況と検討課題を記載しています。

そして、各評価細目や利用者調査の内容を長期的、多面的、根本的に考え、事業所の全体像を把握して総評を決定・作成しています。

なお、本市の場合、子ども子育て支援事業等により、以下の手厚い支援がある。

- ・1歳児の保育士配置は国基準を上回る園児3人に1人の配置である。
 - ・アレルギー食材の除去のみでなく、代替え食の提供がある。
 - ・文化事業補助金を活用しての、子どもの情操教育が可能である。
 - ・教育委員会による、幼保小一体での研修計画が充実している。
 - ・園庭の芝生化補助金で、安全な子ども達の運動・体力作りが可能である。
- さらに、公立園には以下の対応もしている。
- ・楽都として年1回の音楽鑑賞会を開催して、音楽を楽しむことができる。
 - ・シルバー保育サポーターの定期的な来園がある。

◇ 特に良いと思う点

○ 園歌に視る良質な保育の歴史

神田保育園は昭和26年開設という歴史をもつ保育園である。老朽化に伴い2年前に立て替えられ、安心・安全な環境の整備で、子どもたちは伸び伸びと一日を過ごしている。

園の廻りは古くからの住宅地と田畑が広がり、自然にも恵まれた住みやすい地域である。

また、子どもたちが歩いて行ける範囲に、何ヶ所もの公園や神社仏閣、公共施設、商行施設、高齢者施設等があり、何よりも千鹿頭山、千鹿頭池は恰好な散歩・遊びの場所となっている。

そして、恵まれた環境とともに、そこに住む住民は園児を温かく迎え入れ、また、地域全体で子どもを育てて行こうとの思いもあり、子育てにも優しい地である。

そこでの散歩や遊びを通しての五感刺激、好奇心、探究心、生き物への興味が心身の健康の基礎を培っていることも納得できる。

「みんなの神田保育園」の歌は平成4年に保護者会が呼び掛けて作られた歌であり、入園式や卒園式などの行事の際に子ども達に歌い継がれ、親しまれ地域の中へも浸透している。

このような関係もあり、千鹿頭神社の御柱祭への園児の参加、氏子メンバーの教えによる長持ち行列やお囃子は、毎年運動会で披露する腕前となっていて、その取り組みは未来の伝統文化の継承者の育成へと繋がっている。

さらに、地区の町会文化祭では子どもたちの作品の展示に加え、今年度は町内園児による歌と園長の笛の演奏があり、益々地域との関係が進化している。

また、近くの高齢者施設での高齢者との交流等の諸々の活動は、まさに保育方針である「地域との関りを大事にし、自然や伝統文化の中で子どもの育ちを豊かにする」の実践であり、地域との関係の深さを感じる。

地域との良好な関係は子ども達にも影響を与え、縦割保育での異年齢交流を通して思いやりやかかわりを学ぶとともに、年中・年長になると廊下やホールの掃除を一緒に行い、雑巾の絞り方、使い方、協力し合う体験の機会となっており、また、年少児の午睡後の着替えなどのお世話は人気があり、率先して関わるといふ。そんな普段の関係が、園児全体の仲の良さとなって表れている。

当然、保護者等と保育士の良好な関係もアンケート調査の結果からも読みとれる。

そこには、各保育士は全園児・保護者の名前を覚えることに努め、いつも気にして気軽に声を掛けたりと、園全体で我が子を育ててくれているとの声が多く寄せられている。

また、参観・懇談会では、クラスごとに生活習慣の習得や育ち、課題を上げての今後の見通しなど具体例を豊富にあげて、保護者等への保育の理解を深め、また、共に育てるといふ意識もある。

今回の第三者評価受審を通して職員は自身の振り返りや自己評価の機会となり、報告会においては、利用者調査結果や仮結果報告書をもとに職員会議で話し合い、検討の上、すでに対応を始めるなど、質の向上に向けての速やかなアクションも確認できる。

質の向上に意欲的・継続的に取り組むこの姿勢が、この園の歴史を作っていると理解する。

◇ 特に改善する必要があると思う点

○ 慢心を戒め感性を磨く

研修会も多く設定され、エピソード記述をとり入れての保育の振り返りを行い、子どもの育ちを支える保育に努めており、保育の質が高い事もわかる。

代替者がクラスに入るときは、引き継ぎ表が前日に作成されており、当日の子どもの活動、留意点、担任からのアドバイス等も載っているため、本人も戸惑うことなく、子どもに不安を与えることなく一日の保育が進んでいくような仕組みとなっている。

また、代替者からの子どもの様子や連絡事項もクラス担任に届くような工夫もある。

それは、日案・週案・月案・期案の連続性に注力しており、個々の子どもの育ちがはっきりと分かるようにして、就学の際の要録作成に威力を発揮している。

各案の振り返り・評価は次案作成に向けての基であり、保育の言語化が各保育士に教育されているものと思われる。

子どもの園での生活や遊び、それらの中で育まれた子どもの資質・能力を次に引き継ぐことは次の学年や小学校での生活を円満にスタートするための一助と意識しているのであろう。

しかし、専門性にばかり注力すると、福祉施設における一番大事なことを忘れがちになる。

それは、利用者の生命の保持や、権利擁護・プライバシーの保護である。

訓練等で習得した交通ルールが、園内の廊下や踊り階段で自立して行動がとれているかなど、常に気を配る必要もある。

また、保護者等がいつでも確認できるように玄関に第三者委員の名前等を掲示したり、第三者委員の活躍の場を増やして来園を促し、保護者等と顔の見える関係作りである。

さらに、ボランティアにおけるお話の会での子どもの聞き取りの際の姿勢、子どもの食べ方やトイレ後の手洗いなど、教えた後の確認である。

誰の言葉か、「乳児は肌を離すな、幼児は肌を離せ手を離すな、少年は手を離せ目を離すな」が浮かんでくる。

さらには、絵本の読み聞かせボランティアの更なる保育への活用など、当事者の声とともに外部の声を広く集める新たな取り組みが期待される。

- 7 事業評価の結果（詳細）と講評
共通項目（別添１）
内容評価項目（別添２）
- 8 利用者調査の結果
アンケート方式（別添３－１）
- 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

第三者評価の受審は初めてのことでしたので、回答の方法やどの程度提出資料が必要なのか戸惑いがありました。しかし、第三者の方から、保育園の運営等を見て頂くことで、今まで当たり前と思っていたことが、保育園独自のルールであり、外部から見ると違和感があるということを知ることができました。今まで慣例で行っていたことの意味を見直したり、明確にしたりすることが必要であると感じました。

公立保育園のため、保育内容については、保育指針に即した内容で統一されたものがありますが、次への改善につながる記録の形式を整え、PDCAサイクルが有効に機能するようしていきたいと考えます。また、指摘いただいた課題については真摯に受けとめ、管轄する保育課とも問題点を共有し、計画的に改善に取り組んでいきます。

保護者の皆様から、職員の勤務や健康を心配していただくコメントを多数いただきました。感謝の気持ちは当然ですが、労働過重が保護者にも伝わっていることを感じました。アンケートの中で挙げられた課題も含め、保護者にわかりやすいように説明し、職員全体にも周知し改善を図っていききたいと思います。また、保護者の好意的な意見は自分たちの心の糧にし、それに甘えることなく、より良い保育を目指していきたいと思えます。

今回、神田保育園の歴史的良さを高く評価していただきました。今まで大切に受け継がれてきた地域との関わりが神田保育園らしさであり、魅力であることに改めて気づかせて頂きました。これからも、保護者の皆様、地域の皆様とともに、地域に愛され、子ども達が元気で地域を明るくできるような保育園を目指していきたいと思えます。